

例会報告：2015年9月1日（雨） 第1902回 通常例会

❖ 会員誕生日

杉崎 勝成さん（9月2日）



❖ 奥様誕生日

中村 弘美さん（9月3日）
鈴木 延江さん（9月6日）

❖ ニコニコ箱

櫻井 康二 委員長

	ニコニコ箱	累計	目標
9月1日分	12,000	181,500	1,300,000

* 会員誕生日

杉崎 勝成さん…誕生日祝いありがとうございます。忘れていました。63歳になります。早いものですね。

* 奥様誕生日

鈴木 竜哉さん…家内の誕生祝いありがとうございます。

* その他

執行部一同…この所涼しい日が続き、夜は秋の虫達のコールも聞こえてきますが、また暑さがもどってくるのか？風邪など召されぬよう、お身体をおいとい下さい。

小嶋 章司さん…母が逝去致しました。とりかぶとも枯れました。皆様会葬ありがとうございました。

大川 誠さん…本日途中退席させていただきます。

志澤 昌彦さん…辻村さん、本日はよろしくお願ひします。

■ ■ 今後のメークアップ情報 ■ ■

-2015年9月-

- ▶9日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話：新会員自己紹介/芹沢会員・市川会員」
- ▶10日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話：クラブ協議会/ガバナー補佐公式訪問」
- ▶11日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶11日(金) 足柄 おんりーゆ〜 12:30
「卓話担当：クラブ研修」
- ▶14日(月) 小田原 お月見例会 報徳会館 18:00
「担当：ロータリー家族親睦委員会」
- ▶15日(火) 箱根
- ▶16日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話：私にとっての小田原北ロータリークラブ」
- ▶17日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話：新会員自己紹介/高橋会員・高野会員」
- ▶18日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶18日(金) 足柄 おんりーゆ〜 12:30
「卓話：ガバナー公式訪問」
- ▶21日(月) 小田原 休日休会
- ▶22日(火) 箱根
- ▶23日(水) 小田原北 休会
- ▶24日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「クラブフォーラム/ガバナー公式訪問」
- ▶25日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶25日(金) 足柄 おんりーゆ〜 12:30
「卓話担当：職業奉仕」
- ▶28日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「クラブ協議会/ガバナー公式訪問」
- ▶29日(火) 箱根
- ▶30日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話：元小田原北ロータリークラブ会員石田/東洋医学について」

【小田原城北ロータリー・クラブ】
事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
URL：http://www.odawarajhrc.jp
Mail：info@odawarajhrc.jp
例会場：小田原卸センター内会議室
創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
例会：毎週火曜日 12:30～13:30
クラブ会報委員会
監修：柳井 渉
編集長：小林 和彦
コピーライター：大川 誠
デザイン：小林 和彦
フィールド：大川 久弥・杉本 博愛

会員数：46名



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
ODAWARA JOHOKU R.C.
2015-2016
WEEKLY BULLETIN



世界へのプレゼントになろう

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

本日の例会：通常例会（第1903回）

会場：小田原卸センター内会議室

日時：2015年9月8日 12:30～13:30

司会：須藤 公司 副幹事

12:30	開会点鐘：木村 頼弘 会長 ロータリーソング斉唱 「我等の生業」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告/出席報告/委員会報告 同好会報告/ニコニコ箱
13:00	担当：荻野委員長 卓話：松原神社宮司 村上道明 様 「松原神社の歴史」
13:30	閉会点鐘：木村 頼弘 会長

■ 雑誌広報9月号報告

雑誌広報委員会 杉崎勝成 委員

先週配布されたロータリーの友はお読みいただけましたでしょうか。先ず縦書き4ページからは、今年2月に2520地区（岩手宮城）で開催されたIMで語り部の武蔵裕子氏の講演の記事です。友さんの立派なお家のような写真が載っていますが、東日本大震災から4年半が経ち記憶を絶やすことの無いよう語られています。その経験から後半に被害を最小限に抑える行動規範が書かれています。最後の言葉で「故郷を思う心までは流されてはおりません」に復興に向けた前向きな心強さを感じます。続いて13ページの「友愛の広場」からですが、昨年度高崎RCは64名のから9ヶ月で37名の増強をしたそうです。会長自らが陣頭指揮をとり会員のモチベーションを高めその成果があったということは、リーダーがクラブに対する思いを全ての会員に伝える努力次第で更なる大きなパワーを生み出せる証だと思えます。インナーホイールクラブ（Inner Wheel Club）という言葉をご存知ですか？32ページの下段に注釈がありますが、ロータリアンの夫人による国際組織だそうです。31ページから32ページにかけての札幌東RCの記事中に出てきます。最後は横書きの14ページに先月号と2回にわたり例会の食事エピソードについて特集されています。第9グループでも箱根RCや湯河原RC



【会長】木村 頼弘
【副会長】久保田 知子
【幹事】柳井 渉
【副幹事】須藤 公司
【会場監督】西 寛

楽しさと感動を呼ぶ一年にしよう

【今後の例会・卓話スケジュール】

9月15日（火）通常例会 12:30

9月22日（火）休会

9月29日（火）通常例会 12:30

10月6日（火）通常例会 12:30

10月13日（火）通常例会 12:30

「クラブ協議会」

10月20日（火）通常例会 12:30

「クラブ協議会/ガバナー公式訪問」

10月27日（火）通常例会 12:30

「クラブフォーラム（米山）」

のカレーの日とか足柄RCのバイキング形式の食事とかがありますが、いつも出されたものを頂くことに慢性化してる中この記事を読むと色々な工夫や楽しみ方が伺えます。何年か前に箸袋に名前入りの「マイ箸」が配布され今もご使用されている尊敬すべき会員もおられますが、その「マイ箸」を使用し週替わりで5つの業者と提携し特色ある食事をしている記事が最初に書かれています。また食事中にBGMを流したりと優雅なひと時を過ごせそうです。また、15ページを見ると豪華なホテルのディナーショーの夜間例会も良いですが、パーベキュー例会も安価で親睦・交流が深まり楽しく出来そうなので、会長時代にやれば良かったと思います。それから河野さんのご紹介で5年前のIMの講師でお世話になった伊那RCの塚越 寛氏に関する事も書かれています。その前年度に優良企業訪問でも塚越氏の伊那食品工業に行きこの敷地内にある「ひまわり亭」で昼食を食べましたが、伊那RCの健康的な食事はここが作っているそうです。毎週例会の食事毎回楽しみに思えるように工夫がされると良いですね。

次号の「ロータリーの友」の特集は「例会を楽しむちょっとしたコツ」です。早く読みたい方は「ロータリー・ジャパン」のホームページ内の「ロータリーの友 電子版」を月末頃に見てください。IDとパスワードは(rotary)です。



RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！

例会報告：2015年9月1日（雨） 第1902回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2015年9月1日 12：30～13：30

❖ 会長挨拶

「識字率向上」について



木村 頼弘 会長

今日は「基本的教育」と「識字率向上」月刊です。今日は「識字率」についてお話しします。現在の世界の人口72億5千万人おります。45年後の2060年には100億を超えるといわれています。日本の人口は減少傾向ですが、世界的な人口は爆発的に増加します。人口の増加と共に、読み書きのできない人口も増加しているといわれています。

そもそも識字率の定義とは、15歳以上の人に対する、読み書きができる人の割合とされています。ユネスコの統計によると、世界で読み書きのできない人は15歳以上で、7億5,000万人以上いると言われてます。その内女性が64%を占めています。しかし、この数には14歳以下の子どもが含まれておらず、世界には学校に通う事の出来ない子供がさらに19億人いると言われてます。両方合わせると世界の人口の1/3の26億人以上も読み書きの出来ない人達がいるということになります。

日本では、読み書きの出来ない人は先ずいません。統計上の識字率の実質は100%だと考えられます。だから、識字率の向上についてと言っても、多くの日本人には関心の薄い問題と思われても仕方がないのかも知れません。識字率が低いのは、やはり発展途上国で、東南アジア・アフリカ大陸では50%を切る国も多く、25%しかない国も幾つかあるそうです。

私も仕事でカカオ農園の視察にインドネシア・マレーシア・シイガポールとがりましたが、街中ではストリートチュルドレンを結構見かけました。車が止まるたびに物を売りに来ます。また、カカオ農園では小さい子供達が働く、児童労働の姿も目の当たりに見えました。ヨーロッパのチョコレート業界では、フェアトレードチョコレートといって、カカオの生産現場で児童労働に関わっている農園からは、原料を買わないといった、児童労働をなくす取り組みが進んでいます。しかし、貧しい国では児童労働をなくせば、それが教育を受けられる事につながるのかと言えば、そうとも言えない問題もあります。

世界中の子供達が基本的な教育を受け識字率が向上すれば、貧困、病気・水の衛生、紛争、すべての分野において問題解決につながる事だと思います。この特別月間を機会に、世界には読めない、書けない、計算が出来ない26億人の人達がいる事を再認識すると共に、私たちに出来る事は沢山あると思いますが、なぜ、私達はそれを行動に移せないのか今一度、考える良い機会だと思います。これをもって挨拶いたします。

❖ 幹事報告



柳井 渉 幹事

- 1) 9月のロータリーレートは124円です。
- 2) 5人グループ会合を開催をお願いします。
- 3) 小田原市尊徳記念館より第58回「尊徳祭の案内」のポスター来ています。

❖ 出席報告

阿久津 馨 委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
9月1日	46(40)	31	0	77.50%
8月25日	46(43)	34	1	81.40%
8月11日	46(45)	38	1	86.67%

【欠席者】9名

中村 維孝、小嶋 章司、河野 秀雄、太田 忠、小川 和夫、須藤 公司、杉本 博愛、大川 裕、上田 博和

【今回MU】0名

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

❖ 委員会報告

40周年実行委員会・杉崎委員長

9/29（火）第3回委員会のお知らせです。今回は結束を深めるため懇親会を用意しております。ぜひご出席ください。記念式典まであと半年少しになりました。各部会には宿題をお出ししてありますので発表をよろしくお願いします。

❖ Table Flower

- デルフィニウム
- トルコキキョウ
- スプレーバラ
- キノラパン
- リビストニア

【花言葉】

デルフィニウム：「清明」

トルコキキョウ：「優美」「希望」

スプレーバラ：「温かい心」「一時の感銘」

キノラパン：「永遠にかわらない愛」



❖ 卓話

「里山のミッション」



辻村植物公園
辻村 百樹 様

辻村農園・辻村山林8代目当主の辻村です。また、T-FORESTRYという会社でフォレストアドベンチャーという山でのレジャー施設を運営しております。今日のテーマは「里山のミッション」。小田原は里山に囲まれ街があり海があり、コンパクトに色々な自然がある地域です。その中で里山はどうあるべきかお話ししていきたいと思えます。私の家、辻村家初代は吉田島出身で小田原に出て商人となりました。三代目の甚八郎が繁栄させて大きな商家となりました。当時の小田原は富士山の噴火や地震など災害が多くて、お金の苦労した藩でした。そこでお金をご用立てし、それによって辻村という名字と帯刀を許されたそうです。ご用立てしたお金の代わりに威張山（いはりやま）を頂き、辻村山林が始まりました。五代目が商売から山林業に中心を移し、私の祖父・六代常助が城山、八幡山にかけて辻村農園を開設します。そして私の父が農園の一部を小田原市に譲って「辻村植物公園」が平成2年に開園しました。

辻村家は進取の気風があり、大正6年頃に水力発電所を建設しています。製材工場の機械を動かすための電力と山にあった自宅の電気、近くにあった紡績工場への売電も考えていました。また、種の通信販売なども早くからやっていました。祖父の常助は独学で英語・フランス語・ドイツ語を学び、それで色々輸入が可能になったようです。園芸事業にも傾注して園芸専門誌を作ったりしました。その弟の伊助は登山家で、本場スイスの山に登りたいと大正2年に渡欧し、各地を巡りながらヨーロッパの山々を踏破しました。初めてスイスの冬山に登った日本人で、紀行文「スウィス日記」は今も文庫で出ています。

現在の辻村農園は約70ヘクタール（20万坪）ほど。山林が8割で2割が農園です。山林はスギ、ヒノキの人工林が7割、昔からある広葉樹の自然林が1割、メガソーラーや色々な開発で使っている部分が1割となっています。農園は8割が梅園でミカンが1割、竹林が1割といった構成です。

森を育て維持する一番の目的は大気循環、水脈形成、動物や昆虫の生きるフィールドです。そして森というのは昔、全てのエネルギーの根源でした。その後、石炭になり石油になり原子力まで行くのですが、昭和初期までは料理やお風呂に薪を使う家も結構ありました。人間の生活と自然をどう共生させていこうか森を育てる上での課題となります。「森は自然のままにしておけばいいじゃないか」という自然保護団体の方もいらっしゃいますが、人間が手を入れる意義はもちろんあります。例えば針葉樹と広葉樹の共生。材木として使う針葉樹、家具などに役立つ広葉樹、そういった様々な木の共生をどうバランスよく取っていくか。樹種の多様化も必要です。高い木、低い木、苔類などの色々な種類、また南の暖かい地方の木、寒さに強い木、日本列島の四季にバランスよく合う木があります。樹種の多様化によって動物や鳥、虫たちの生きる道を広げる様々な森を作れます。間伐の実施も大切です。間伐は良い木を育てるための手段の一つですが、建築でも木造が減ってベニヤや集成材が多い時代になり、そのための間伐ばかりが独り歩きしています。本来は途中経過の結果でそれを適材適所に使ってきました。間伐により木と木の間に空いて太陽の光が地面まで届きます。すると下草が生え、洪水などを防いで水を受け止めてくれます。

これは自然に任せていると難しく、二宮金次郎も水の管理に一番苦労したそうです。森を育てるには長い時間をかけた保守が必要です。地拵えという植える前の地面を拵えることから始めて、木を植え、下草を刈り、良い木以外を抜いたり、10年単位で間伐を行い、最後に木を伐るまで。50年から90年かかります。木を伐って市場で値がつくまでそれだけの時間と労力をかけ、売れて初めてお金になり回収できる。その1回だけです。そこが毎年収穫可能な農場との最も大きな相違点です。税金上の経費算入というのも伐採したその時しか認められません。育てている間は経費として認められないのです。また相続税上の問題は立木にも税金がかかること。祖父の代で伐らなければ相続税がかかり、それを父の代でも伐らなかつたらまた相続税がかかるのです。200年300年の木は何代にも渡って相続税がかかるというのは不思議な税制です。江戸時代からずっとある木は何も変わらないのに、人間は背景や経済環境が変わっていきます。明治時代から経済発展の時は売れたし、戦争になれば防空壕用の木材を提出させられました。戦後は使えずに荒山になったところにやたら植え、その時の木が伐れる状態になったら今度は木材の需要が無くなってしまいました。時代の変化に翻弄されるのが林業です。今の木の値段は昭和37年と同じ水準ですが、人件費は20倍になっています。合うはずがありません。現実の経済と乖離しています。木の需要の変化を生産調整に活かしていくのは長期すぎて難しいものです。日本の木材自給率は、戦後はほとんど100%でしたが、輸入材が増え平成12年には18.2%になってしまいました。でも山にはほとんど木が成長している、というのが現実です。

林業は崩壊しつつありますが、辞めたら森はどうしようもなくなりますが、撤退はできませんが、木材生産林業からは脱却したい。そこで里山の役割として長大な時間軸を踏まえながら新しいニーズを発掘していかなければならないと思っています。

- 1) 素材の生産。基本中の基本で、木材・果実の生産です。果物だけでなく筍やお茶なども含みます。
- 2) エネルギーの創出。昔は木材、枝、葉、実、枯草、全てを活用していました。現在はペレットやバイオマスの発電などを始めています。
- 3) 生態系の保存。生物の多様化、鳥獣被害の対策です。適正捕獲、食物連鎖を適正化することを考えています。
- 4) 余暇の提供。これは今まで森林でやっていなかったことです。山に入ると色々なことができます。歩く走る登る下りる飛ぶ和む寝る食べる安らぐ…それに対応する方法を考えて、山を余暇に利用して欲しいと思っています。

里山の課題は地産地消。小田原でぜひ地元木材建築の拡大を進めたいし、公共建築にも利用して欲しいです。子どもたちには「木育」として木に触れてもらって木材のルーツを知り、本物を見て木の良さを分かってもらいたい。フォレストアドベンチャーというワイヤーを使って木から木へ渡って遊べる施設も展開しています。森をそのまま活用しているところがポイントです。他にも色々な企画を考えています。森作りは時間のかかる取り組みですが歴史の継承でもあります。ぜひ遊びにいらしてください。

